

県生協連「2018年度組合員活動研修交流会」報告

1. 日時 2019年3月14日(木) 10:45～14:30

2. 場所 青森市 ワ・ラッセ1階 交流学习室1・2

3. 参加 52名

コープあおもり(14名) 青森県民生協(16名) 津軽保健生協(1名) 青森保健生協(7名)
八戸医療生協(1名) 青森県生協連(3名) 講師・スタッフ(10名)

4. 開催目的

- ・NPT再検討会議に向けて、核兵器をめぐる情勢や取り組みへの理解を深める。
- ・食生活の見直し・改善の取り組みについてツールの内容や実験方法等を学ぶ。

※2019年度から活用できる食生活の見直し活動ツールの現物の紹介。

5. 当日プログラム

＜司会：県生協連常務理事 鎌田 敦子＞

10:45	開会挨拶 青森県生協連会長 平野 了三
10:50	講話と実習 青森 de 食育 ～食生活の見直しツールと食育実験を活用して～ 講師：東北女子大学健康栄養学科 前田 朝美氏 助手：齋藤 望氏、江良真衣氏、大高梨沙氏 学生スタッフ：伊藤沙和さん、小笠原加奈さん 小林千花さん、杉本 翠さん、高橋はるなさん
12:30	昼食・休憩
13:10	学習講演： 核兵器をめぐる情勢とNPT再検討会議に向けて 講師：日本生協連組織部 小池 佳和 氏
14:15	グループでの感想交流
14:25	閉会の挨拶 青森県生協連常務理事 鎌田 敦子

6. 概要報告

(1) 講話と実習「青森 de 食育」～食生活の見直しツールと食育実験を活用して～

青森県生協連平野会長による開会の挨拶に続き、東北女子大学健康栄養学科の前田朝美氏より、青森県が短命な理由と時間栄養学の実験データからわかる食と健康の関係等についての講話がありました。

基礎知識を学んだ後は、10のグループで、スタッフ（東北女子大の助手の先生3名・学生さん5名・食の安全推進委員会3名）のサポートも受けながら、「食生活自己チェックツール」の活用方法を学びました。このツールは1年半かけて、食生活改善専門家チーム（東北女子大3名、青森保健生協協立病院3名、県連2名）が開発したもので、自分の食生活を点数化してどこに課題があるのかを



研修開始前に打合せするスタッフ



発見するものです。賑やかなチェック活動の後は、試験紙を使って野菜や果物のビタミンCの量や、活性酸素消去力を確かめる実験をしました。学生さんたちに教わりながら、次には自分でできるよう体験しました。最後に、COOPの加工食品も上手に利用したバランスのとれた食事メニューを話し合い「食事プレート」を完成させ、展示・交流しました。



(2) 学習講演「核兵器をめぐる情勢とNPT再検討会議に向けて」

日本生協連組織部の小池佳和氏に「核兵器をめぐる情勢とNPT再検討会議に向けて」と題してご講演いただきました。核兵器とは何か、広島・長崎への核攻撃とビキニ環礁での水爆実験、原水爆禁止運動の誕生と広がり、核兵器を巡る世界情勢、核不拡散条約(NPT)と核兵器禁止条約、禁止条約に対する日本政府の考えと批准状況について、わかりやすくお話しいただきました。最後に私たち一人ひとりにできること



について、2008年平和祈念式典での平和への誓いを引用しながら、事実を知ることが大切、「もっと知ろう、聞こう、話そう」「調べてみよう」「やってみよう」という行動提起をされました。

7. 参加者の感想より

- ・自分の食生活を見直してみたい。1日をトータルで見るのではなく、1食1食を大切に考えながら食べるようにしていきたい。実験も良かった。自分たちの生協の活動にも今日の学習をどのように活かしていけるか考えていきたい。
- ・食生活の見直しにとっても参考になった。食品を摂る「タイミングや量」などを考えながら献立をたてるようにしたい。チェック表を使って自分の食習慣を振り返る事ができて良かった。東北女子大の学生さんが入っての実験も楽しかった。若い人が入るといいですね。
- ・核兵器禁止を訴えながら、日米同盟の下抑止力を維持する矛盾を感じる。私たちにできるのは、知る事、調べる事、広める事、伝えていく事が一番大切。署名も更に広げていく事。
- ・2020年のNPTに県生協連として2~3名派遣したいとの事、募金活動にも取り組んでいきたいです。
- ・戦争について、核兵器についての学習会は何度もやっていただきたい。